

要旨

道路ネットワークは、様々な物流施設と生産拠点をリンクする機能を有するという意味において、国際的な物流貨物の国内運搬を効率的かつ効果的に支援する役割があると言える。しかし、従来の道路ネットワーク評価においては、主に国内の地域間陸上物流を対象に評価が行われており、港湾と各地域の港湾貨物輸送の取扱額を考慮した評価はなされていなかった。そこで、本稿では、港湾と背後圏の経済的繋がりを明示化した上で、港湾貨物輸送を加味した応用一般均衡モデル『RAEM-Light』を構築した。その結果、『地域間陸上物流』および『港湾貨物輸送の背後圏への物流』の2つの視点からの道路整備による帰着便益を計測することができた。